

## ⑬葛山地区(熊本市西区)

日本一のみかん産地を目指して  
～河内の星となる挑戦を！～

ビジョン策定年度:平成30年度 目標年度:令和4年度



## 1. モデル地区のプロフィールと現状

(平成30年度)

### ◆農業者に関する状況

・総戸数	60戸	地域からの聞き取り
・総人口	180人	地域からの聞き取り
・農家戸数	48戸	2015農林業センサス
・農業者数	96人	2015農林業センサス
・担い手数	36人	
・65歳以上の農業者数	51人	2015農林業センサス

### ◆農地に関する状況

(1)面積区分	
・畑(樹園地)	76.8ha
(2)作付区分	
・畑(樹園地)	温州みかん、 晩柑

### ◆基盤整備に関する状況

(1)ほ場整備	2.2ha整備済
(2)耕作道路	幅員が2.0m未満
(3)排水	土水路
(4)用水	井戸ポーリングによる取水

### ◆集落の現状

○県を代表するみかん産地である河内地域に位置し、農地の9割以上が樹園地である。急傾斜地が多く、また、耕作道路の整備が十分進んでいないなど、作業条件が十分整っていない樹園地が多い。

○主要品目は温州みかんで、その他のかんきつ(晩柑等)も栽培されている。

○65歳以上の農業者が半数以上を占めるが、他地区と比べて若手農業者も多く、新規技術等の導入にも意欲的である。

○集落のまとまりが良く、地域の伝統行事(「山神祭」等)に継続的に取り組む一方で、行事の際に学生ボランティアを招く等、外部との交流にも積極的である。



## 2. ビジョン策定のプロセス

### (1)ビジョン検討のスタートに向けて

平成12年よりスタートした中山間地域等直接支払制度部会が母体となっている(葛山は平成17年から交付金活用)。熊本のなかでも、河内は重要な農業地・みかんの産地であるため、行政としても葛山にモデル事業を入れる必要があるという認識があった。

生産者は生産・販売ルートでグルーピングされていることが多い。しかし、当事業は集落や地区で進めていくため、農協や地域と協議した結果、中山間地域等直接支払制度のメンバーが当事業の母体となった。

### (2)協力体制

葛山はリーダー的な農家が数軒あり、また若い後継者がバックアップしている地区でもある。

ビジョン策定メンバー内の若手後継者は5人。中山間地域等直接支払制度部会を中心に、世話役・若手後継者を含め、各農家の協力体制を整えた。



JA河内支店での事業検討の様子



現地における事業実施の検討の様子

### (3)検討の経緯

国の中山間地域等直接支払制度の活用を進めているところに、当事業の話がきた。

当地区は平成17年度から中山間地域等直接支払制度を活用して機械などを揃えているため、当事業では地域最大の課題となっている耕作道路の整備を中心に活用することで検討を進めていった。(検討の流れは下表のとおり)

### (4)ビジョンの合意形成

元来みかん農家としてまとまりがある地区である。当事業では地区最大の課題である、各農家が共同で使用する作業道の整備を行うということもあり、合意形成はスムーズに行われた。

#### ◆モデル地区農業ビジョンの検討の流れ

番号	日付	場所	話し合いの内容	参加人数
1	H30.6.19	JA河内支店	役員への事業説明、事業内容の検討	14名
2	H30.8.21	JA河内支店	組合員への事業説明、事業内容の検討	16名
3	H30.9.3	葛山公民館	地区ビジョンの検討・整理	16名
4	H30.10.2	葛山地区	現地検討	5名
5	H31.2.6	葛山公民館	地区ビジョン(素案)の検討	14名
6	H31.3.8	河内まちづくりセンター	地区ビジョン(案)の作成	15名

### 3. 集落の「課題」と「将来像」

#### ◆集落の課題

○作業条件が十分整っていない樹園地が多い中、既設の運搬用モノレールが製造中止になったことなどから、将来に向けた温州みかんの収穫や運搬体制の再構築が必要。

○作業条件が整っていない樹園地は高齢の農業者のリタイア等を契機に耕作放棄地化する恐れがあり、耕作道路の整備や区画拡大等の基盤整備を通じた作業条件の改善が必要。

○耕作放棄地の増加によるイノシシ等の鳥獣被害の拡大が懸念され、地域ぐるみでの対策が必要。

○果樹経営の収益力強化のため、優良品種への転換や高品質果実の生産、省力化の推進が必要。

#### ◆集落の目指す将来像

○作業性の向上・省力化とともに出荷物の高品質化による収益力の高いみかん産地の確立。

#### ◆成果目標

- 省力化園地を1ha以上整備する。
- 高品質果実の生産に向け、優良品種への転換を40a以上実施する。

#### (1) 課題認識に変化はあるか

##### ◆耕作道路整備の進捗

耕作道路整備に関しては各農家で活用したいという希望があがったので、地元で優先順位を決め、着手できる箇所から進め、令和元年度に実施した。現状としては、作業道のならしを自力で行い、コンクリートを打てる状態にはなっている。

みかんの収穫のピークが落ち着く令和2年2月以降にコンクリート整備行う。令和2年度末までには360mの施工を完了予定。

##### ◆区画拡大予定地の見直し

区画拡大については、令和元年度を実施目標にしていたが、「段差を無くし、2段を1段にする区画拡大を」という県の要望と合致しなかったことと、当初予定していた区画の地主からストップがかかったため、現在は別の場所で区画拡大が可能な土地を検討している。候補地が決定次第、令和2年度以降で実施する予定である。

#### (2) 将来像に修正は必要か

特に修正すべき点はなし。

## 4. 取り組み状況

### [ビジョンの内容]

#### (1) 耕作道路の整備や区画拡大等の基盤整備

◆作業性を高めるため、自力施工による耕作道路の整備や区画拡大等の基盤整備に取り組む。

#### (2) 高品質果実生産に向けた取り組み

◆消費者ニーズに対応した優良品種への転換、先進的な栽培技術(シートマルチ被覆、植物成長調整剤活用等)の普及、省力化に向けた機械導入、労働力の確保やトイレなどの労働環境の整備等に取り組む。

#### (3) 担い手への農地集積

◆リタイアする農家の農地を担い手へ集積する等、集落での話し合いを通じた土地利用調整を推進する。

#### (4) 地域ぐるみでの鳥獣被害対策の徹底

◆イノシシ等の鳥獣被害の実態を把握し、被害状況を踏まえた対策を検討する。

### [各項目の取り組み状況]

#### (1) 耕作道路の整備や区画拡大等の基盤整備について

##### ◆取り組みの状況

##### [耕作道路]

耕作道路整備に関しては各農家で活用したいという希望が上がったので、地元で優先順位を決め、着手できる箇所から進め、令和元年度に実施した。現状は、作業道のならしを自力で行い、コンクリートを打てる状態にはなっている。みかんの収穫のピークが落ち着く令和2年2月以降にコンクリ整備行う。令和2年度末までに360mの施工が完了予定である。

##### [区画拡大]

区画拡大については、令和元年度実施を目標にしていたが、県の要望(※2参照)と合致しなかったことと、当初予定していた区画の地主からストップがかかった(※1・2)ため、現在は別の場所で区画拡大が可能な土地を検討している。候補地が決定次第、次年以降で実施する予定である。

※1 当初、区画拡大に賛成していた地主も、いざ整備の時期が迫ると「自分の土地」への思いが強いため、ためられることが少なくない。

ただ、モデル地区として将来的に成果が見えてくると、地区全体でも区画拡大への理解・実施を希望される人たちも出てくると期待している。

※2 区画拡大の定義が難しいところがある。

葛山は段々畑・石垣で構成されている畑が多いのだが、県の要望は「段差を無くし、2段を1段にする区画拡大を」ということだった。

当事業の最初の段階では、「畑の区分を横に広げる」という話だったが、県と打ち合わせをした結果、2段を1段にしていく計画を提案された。葛山は傾斜が強いため、石垣を崩し、段をならすとすると、大規模な費用がかかる。

そのため当初は区画拡大に理解を示していた地主も「横に広げるのはいいが、縦(段差を無くして1段にする)は費用的にも難しい」という声があがった。

## 【モノレール】

現在、河内で活用している既設の運搬用モノレールが製造中止になったことから、モノレールが使用できなくなった場合は、多額な費用をかけて新しく買い換えなくてはならない。それよりも作業道を作る方がはるかに安価である。

そのため新たにモノレールを購入するのではなく、地区が共同で使える作業道を整備することで合意が進んだ。

## ◆取り組みの成果

耕作道路整備は令和2年度末までに360m延長予定。令和2年度は200mの延長を計画している。候補地は数箇所があがっている。

令和2年度は、区画拡大、機械導入の予定もあるため、予算としては耕作道路200mで計画しているが、今後の話し合いによっては微調整する。例えば耕作道路整備が400mになる代わりに区画拡大を狭くするなど、予算のバランスを見ながら優先順位を流動的に決めていく予定。

## ◆解決すべき課題と今後の方針

区画拡大の各農家への交渉は、中山間地域等直接支払制度部会の代表、農家組合などの役員が進めている。

区画拡大候補地の土地所有者は、後継者がおらず現在は農地が荒れている状態。「区画拡大をして今後自力で生産性を上げる」というよりも、景観維持・鳥獣被害防止など、地域全体を守るために状況を良くしていこうという話し合いを進めている。

区画拡大を実施した箇所が今後みかん農家を継続されるかは分からない。しかし若手や隣軒農家などに任せてもらえるよう、現在理解を深めてもらっている。

耕作道路整備前の状況



耕作道路整備後(令和2年2月)の状況



## (2)高品質果実生産に向けた取り組みについて

### ◆取り組みの状況と成果

#### [転換について]

温州みかんの作付をメインに行いつつ、新しい品種などに更新していく予定。古木を新しい木に変え、市場の需要がある品種に変えていく方針。お歳暮の時期などに最も需要のあるオザキなどを検討している。

特に極早生品種を多く持っている農家は、品種を変えることで作業ピーク時を平準化し、また所得安定を目指すことができるため、引き続き今後の目標としていきたい。

しかし、この転換については、耕作道路整備を進めることが前提である。現状としては取り組み初年度なので、転換作物としての実績としては出ていない。まずは作業道を優先して整備し、令和2年度からそれ以外の取り組みを具体的に進めていく予定である。

#### [機械の導入]

検討の段階ではあるが、令和2年度に小型運搬車の購入を視野に入れている。耕作道路が整備されると、畑まで運搬できる小型機械が導入しやすくなる。作業効率が上がり、また年配者の負担軽減にもなるため、今後検討していきたい。



小型運搬車

### ◆解決すべき課題と今後の方針

ビジョン策定時に「トイレ設置」をメニューにあげたが、現段階では導入していない。トイレ問題はかなり切実である。特に収穫時にアルバイトに来てもらう人たちのトイレ確保ができない。トイレ設備ができると、アルバイト募集もしやすくなるため、今後引き続き検討していきたい。

## (3)担い手への農地集積について

### ◆取り組みの状況と成果

葛山は農林水産省の「人・農地プラン」により地域で計画を作成しており、将来的には農地集積を目指している。

また、熊本県青年農業者クラブ「4Hクラブ」に所属している若手後継者が、個人的にイベントを開催。学生を集めてみかん収穫やマルチシート張りを実施した。

### ◆解決すべき課題と今後の方針

すべては耕作道路整備を進め、作業効率を上げることが最優先となる。農地集約化については、耕作道路整備を進めながら、同時進行で計画していく。



若手後継者たち

#### (4) 地域ぐるみでの鳥獣被害対策の徹底について

##### ◆取り組みの状況と成果

各農家で電柵などを設置している。葛山は全エリアにほぼ柵が巡っているため、イノシシ侵入は減少している。耕作放棄地については、その手前で各農家が柵を設置して、被害を最小限に留めている。

##### ◆解決すべき課題と今後の方針

耕作放棄地、荒地に関しては重大な課題である。ここ数年で農地集積化を進めないといけない。

現在は耕作放棄地のある農家に理解を深めてもらうために、慎重に話し合いを進めている。まずはモデルとなる場所を作ることを目指す。



## 5. まとめ:成果と今後の展開方向

### ◆成果目標

- ・省力化園地を1ha以上整備する。
- ・高品質果実の生産に向け、優良品種への転換を40a以上実施する。

### (1) 全体的な成果

#### ① 耕作道路の整備については、各農家の希望を取り入れながら実施。令和2年度末までには360m施工完了の予定。

耕作道路整備に関しては各農家で活用したいという希望が上がったので、地元で優先順位を決め、着手できる箇所から進め、令和元年度に実施した。

状況としては、作業道のならしを自力で行い、コンクリートを打てる状態にはなっている。みかんの収穫のピークが落ち着く令和2年2月以降にコンクリート整備を行う。令和2年度末までには360m施工完了の予定。

#### ② 「省力化園地の整備」「優良品種への転換」については、目標を維持しつつ、耕作道路の整備を優先。

成果目標に挙げた「省力化園地を1ha以上整備」「優良品種への転換を40a以上実施」については、耕作道路整備を優先的に進めながら、継続的に計画していく。

### (2) 今後の展開方向

#### ① 区画拡大の目的をいかに共有できるものにしていくか。 区画拡大候補地の見直しと再検討が必要。

区画拡大の各農家への交渉は、中山間地域等直接支払制度部会の代表、農家組合などの役員が行っている。

区画拡大候補地の土地所有者は、後継者がおらず、現在は農地が荒れている状態。後継者がいないため、区画拡大の意志が共有されない状況になっている。

「区画拡大をして、今後、自力で生産性を上げる」というよりも、景観維持・鳥獣被害防止など、地域全体を守るために状況を良くしていこうという目的の見直しを含めた話し合いが必要である。

区画拡大を実施した箇所が、今後、みかん農家を継続されるかは分からない。しかし若手や隣軒農家などに任せてもらえるよう、現在、理解を深めてもらうよう進めている。

#### ② 当事業は使い勝手のよい事業。 できればさらに柔軟な工夫を。

当事業は、中山間地にとっては非常に使い勝手の良い内容である。しかし、耕作道路などはすべて一律の単価になっている。幅や高さによって単価を変えてもらえるとうれしい。

葛山で計画している耕作道路整備は高単価・コンクリート舗装など高規格な整備であるため、現状としては他事業の補助金も活用しながら進行している。例えばコンクリート舗装をする道については、2500円/㎡ではなく5000円/㎡にするなど、補助単価のかさ上げの工夫等を希望している。

また、地域毎の重点的な取り組みには予算がより計上できるよう、区分けの自由度があると助かる。